

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R6 %	R5 %	成果と課題	改善策・向上策
1.たくましい実力 (自立)	生徒が主体的に 学び、考えを深め 合う授業を推進 する。	進路・学習部 (取組指標) 授業研究会や研修会で研鑽を積み、 ipadの活用、課題の明確化、協働学 習、学習の振り返り等を取り入れた学 習指導の工夫改善に取り組む。 【目標指数】 (1)+(2)の合計が90%以上	教職員	私は、生徒が授業に主体的に取り組むために、ipadの活用、課題の明確化、協働 学習、学習の振り返り等を取り入れた学習指導の工夫改善に (1) 積極的に取り組んでいる。 (2) ある程度取り組んでいる。 (3) あまり取り組んでいない。 (4) 全く取り組んでいない。	100	100	昨年度に引き続き、教職員全員 が授業力向上に向けて、日々の 教材研究に取り組むことがで きた。	現職教育で示した『自己存在感 の感受』を意識した授業を今後も 継続していく。
		(成果指標) 私は、「学びたい」「知りたい」「できるよ うになりたい」という気持ちをもって授業に 参加している。 【目標指数】 (1)+(2)の合計が90%以上	生徒	私は、「学びたい」「知りたい」「できるよ うになりたい」という気持ちをもって授業に (1) 参加している。 (2) だいたい参加している。 (3) あまり参加していない。 (4) ほとんど参加していない。	1年 91.9 2年 93.5 3年 97.6 全体 94.3	1年 95.3 2年 93.4 3年 94.6 全体 94.5	目標とする数値を超えることはでき ないが、まだ主体的に取り組むことが できていない生徒が一部いる。ま ずは意欲を引き出す工夫が必要 である。	授業に主体的に参加できていな い数%の生徒はおそらく学習を苦 手としている生徒である。そのよ うな生徒が1時間の授業の中で何 か1個はできたと思えることをつ くり、それを褒めることで、主体的 に取り組もうという意欲を引き出し ていく。
		(満足度指標) 私の子どもは、「学びたい」「知りたい」「で けるようになりたい」という気持ちをもって 学習に取り組んでいる。 【目標指数】 (1)+(2)の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、意欲的に授業や家庭学習に (1) 取り組んでいると感じる。 (2) ある程度取り組んでいると感じる。 (3) あまり取り組んでいないと感じる。 (4) 全く取り組んでいないと感じる。	1年 72.1 2年 66.7 3年 88.3 全体 75.7	1年 72.6 2年 76.0 3年 73.9 全体 74.1	昨年度と比べ、3年生の数値が 特にながっているため、全体とし ては向上しているが、下がっている学 年が多い。また、自由記述欄には 宿題の出し方や学習支援の在り 方に関する要望があり、改善の必 要がある。	授業で探究をメインにする分、基礎学 力定着のための家庭学習は必須で ある。学習習慣が身につけていない1年 生には全員共通の宿題を出し、学年 が上がるとつれ、段階的に選択制など を取り入れ、最終的に自分に合った 学習ができるような形にしていく。 校内テスト前などの放課後の時間や 長期休暇に基礎学習支援をメインと したSUCを行い、学習を苦手とする生 徒のサポートを行っていく。
1.たくましい実力 (自立)	読書（新聞や専 門誌等を含む） やICTを活用し て、問題解決力 の育成に努める。	教務部 進路・学習部 (取組指標) 読書活動や、ipadなどを活用して得た 情報を整理・分析し、自分の考えを発 信できる生徒の育成に取り組む。 【目標指数】 (1)+(2)の合計が90%以上	教職員	私は、生徒の問題解決力を高めることを目指し、本（新聞や専門誌等を含む）や ipad等を活用して得た情報を整理・分析して、自分の考えを発信できる生徒の育 成に (1) 積極的に取り組んでいる。 (2) ある程度取り組んでいる。 (3) あまり取り組んでいない。 (4) 全く取り組んでいない。	93.5	96.9	若干数値は下がったものの、昨年同 様高い数値を維持している。現職教 育や互いに授業を見合う中で、活用 の幅が広がってきていると考えられ る。また、蔵書検索システム「カーリ ル」を導入し環境を整えることがで きた。有効に活用するためにも、様 々な活動で 課題設定の工夫をしていく必要があ る。	各教科で学んでいる単元に関係 するおすすめの本を準備して、書 籍や新聞記事を授業で活用して いく。また、「カーリル」の利用を増 やしていくための図書委員の活動 を積極的に支援する。
		(成果指標) 私は、自ら課題を設定し、読書活動や ipad等の活用を通じて、問題の解決 のために必要な情報を収集・整理・分 析し、自分の考えを伝えようとして いる。 【目標指数】 (1)+(2)の合計が80%以上	生徒	私は、自ら課題を設定し、本（新聞や専門誌等を含む）やipad等を活用して得た 情報を整理・分析して、自分の考えを伝える活動に (1) 取り組んでいる。 (2) ある程度取り組んでいる。 (3) あまり取り組んでいない。 (4) 全く取り組んでいない。	1年 79.7 2年 81.5 3年 91.0 全体 84.0	1年 82.0 2年 91.8 3年 90.9 全体 88.2	学年が上がると数値は高くなっ ている。特に3年生は、1年生か ら継続して取り組んだことにより、 探究的活動で力がついていると実 感していると考えられる。今後、総 合的な学習の時間だけでなく、各 教科でどのように取り組んでいくか が課題であると考えられる。	蔵書検索システム「カーリル」の宣 伝を図書委員が積極的に行える よう支援する。授業の振り返り等 の中に、情報の整理・分析・発信 の項目を設け、定期的に活動の 自己評価をさせるようにする。
		(満足度指標) 私の子どもは、読書やインターネットを用 いて収集し、自分の考えを発信する活 動に取り組んでいる。 【目標指数】 (1)+(2)の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、本（新聞や専門誌等を含む）やインターネット等を用いて情報を収 集したり、自分の考えをまとめて伝えたりする活動に (1) 取り組んでいると感じる。 (2) ある程度取り組んでいると感じる。 (3) あまり取り組んでいないと感じる。 (4) 全く取り組んでいないと感じる。	1年 65.6 2年 60.0 3年 70.0 全体 65.2	1年 56.9 2年 60.0 3年 63.7 全体 60.6	前年と比べると数値は上がってい るが、目標に達しているのは3年 生のみである。生徒が書籍やイン ターネットで調べたり、まとめを発 表したりしている様子を、保護者が 実際に見る機会が少ないことが、 数値の低い原因と考えられる。	引き続き学年だよりやホームペ ージを通して活動の様子をお知らせ する。その中で、実際の映像を ホームページにアップしたり、「あ わら幸幸学」の経過や写真をH&S で定期的に発信するようにする。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R6 %	R5 %	成果と課題	改善策・向上策
1.たくましい実力 (自立)	保健安全部 集団の中で健康と安全を意識した生活習慣の定着を図る。	(取組指標) 集団の中で自他の健康と安全を意識して行動できる生徒の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、集団の中で自他の健康と安全を意識して行動できる生徒の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	教育活動全体を通して、健康や安全を意識した取組を行うことは、必要不可欠である。命に関わることは教職員が前面に立つという自覚を持ちながら、健康・安全に関する具体的な日常の取組について、更なる意識の向上を図ることが大切である。	引き続き教職員間で共通理解を図りながら、健康・安全教育に取り組んでいく。特に自然災害を身近に感じる昨今の状況を踏まえ、日常においては命の大切さ意識しながら声かけをしていけると良い。また具体的な行動を生徒に示す等、教職員も共に成長することを意識していく。
		(成果指標) 私は、集団の中で自他の健康と安全を意識して行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、集団の中で自他の健康と安全を意識して 〔1〕 行動している。 〔2〕 ある程度行動している。 〔3〕 あまり行動していない。 〔4〕 全く行動していない。	1年 95.1 2年 91.9 3年 98.4 全体 95.1	1年 94.5 2年 97.6 3年 93.2 全体 95.0	どの学年も目標数値を上回った。通年で行う感染症予防としての取組や安全を考える取組の成果として、意識と行動力の高さが表れている。前年比では2学年が低下している。係活動を担う一部の生徒だけでなく、全体として自他を意識し主体的に取り組む生徒の育成に努める必要がある。	中期的に具体的な取組に対する生徒の意識調査を行い、調査結果をフィードバックしながら向上を目指していくことも必要と考える。日常活動や保健・安全行事を学びの機会として捉え、自他の健康・安全に目を向け具体的な行動に結びつけられるよう、生徒の支援に努める。
		(満足度指標) 私の子どもは、集団の中で自他の健康と安全を意識して行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、集団の中で自他の健康と安全を意識して 〔1〕 行動していると感じる。 〔2〕 ある程度行動していると感じる。 〔3〕 あまり行動していないと感じる。 〔4〕 全く行動していないと感じる。	1年 91.8 2年 88.4 3年 100 全体 93.3	1年 88.2 2年 90.0 3年 79.7 全体 85.3	生徒との回答に差がなく、年次推移も良好である。年間を通して学校での取組、生徒への声かけや活動の様子など、情報発信が適切だった結果と思われる。結果に満足することなく、睡眠やネット利用等を含めた家庭での生活習慣、緊急避難場所の確認など、細かな視点での連携もできると良い。	学校での取組や生徒の活動の様子については、引き続き学年や保健安全部から情報発信を継続する。生徒に実施する中期的な意識調査を保護者にも提示し、連携しながら共に生徒の成長を支援していく。
2.明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	一部変更 しました 生徒会活動や学級活動の充実を図り、生徒が主体の活動を推進する。	(取組指標) 生徒が諸活動（行事・生徒会・学級・部）を主体的に運営できるように、協働して取り組む態度の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒の主体的な活動を推進し、仲間と協働して取り組む態度の育成に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	生徒が主体の活動となるよう学校祭、常任委員会等への取組ませ方を見直すことができた。活動によっては準備期間に余裕がないものもあった。	引き続き、学校全体で、生徒主体の教育活動を推進していく。また、生徒が先を見通して早めに計画を立てられよう支援していく。
		(成果指標) 私は、生徒会活動や学級活動、部活動において、仲間と協働し、自分たちで考えて行動することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、仲間と協働して主体的に生徒会活動や学級活動、部活動に取り組むことが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 95.9 2年 92.8 3年 96.7 全体 95.1	1年 98.4 2年 95.9 3年 93.9 全体 96.0	学校祭後の生徒アンケートでは97.8%が主体的に取り組めたと回答している。体育委員が体育祭の企画運営をしたり、生徒会がスタンプラリーを企画したりなど自分たちで行事を作り上げた実感があるのだと考えられる。	行事や生徒会活動だけでなく日々の生活の中でも自ら考え行動できる生徒の育成に今後も努める。
		(満足度指標) 私の子どもは、学級や部活動、学校行事等において、仲間と協働することができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、学級や部活動、学校行事等において、仲間と協働することが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 91.8 2年 91.6 3年 98.3 全体 93.9	1年 66.6 2年 80.0 3年 84.0 全体 77.6	昨年度と質問項目を変更したため数値が上がっている。学校祭や授業公開日等に生徒の活動を多く見ることができたからだと考え。特に3年生の数値が高いのは、前に出る機会が多く、保護者もその姿を見ているためだと考えられる。	各学年通信やホームページ等で生徒が主体的に活動している様子を発信していく。今後も学校公開日に生徒主体の活動を取り入れ、保護者に活躍の様子を見せよう。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R6 %	R5 %	成果と課題	改善策・向上策
2. 明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	自ら考え行動する 態度を育成し、心 の教育の充実を 図る。	(取組指標) 自ら考え行動できる生徒を育成する ために、振り返りやセルフモニタリング等 を通して、自らの生活を考える活動を推 進する。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、自ら考え行動できる生徒を育成 するために、振り返りやセルフモニタ リング等、 自らの生活を考えさせる活動を 〔1〕 積極的に行っている。 〔2〕 ある程度行っている。 〔3〕 あまり行っていない。 〔4〕 全く行っていない。	100	100	「生徒心得」改正に向けての取 組みが生徒の自主的な活動にな るよう、全教職員で共有しながら 進めることができた。	生徒が学校生活の課題を見つ け、自主的に解決していけるよ うな教育活動の在り方を、全教 職員で考え議論していく。
		(成果指標) 私は、ルールの意味や自らのあるべき姿 を考えながら行動している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ルールの意味を考え自分の生活 を振り返り、よりよい習慣が身に つくよう意識して行動することが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 90.2 2年 90.4 3年 95.0 全体 91.9	1年 93.0 2年 95.9 3年 96.9 全体 95.3	「生徒心得」について各委員会 から呼びかけを行ったことで、 ルールの意味を考えることが できた。特に最高学年としての 意識が数値に現れている。	引き続き、生徒による議論を 基本に、生徒自らがルールにつ いて考えられるように支援して いく。
		(満足度指標) 私の子どもは、ルールの意味や自らの あるべき姿を考えながら行動して いる。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、ルールの意味や自らの あるべき姿を考えながら行動する ことが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 90.1 2年 85.0 3年 95.0 全体 90.1	1年 82.3 2年 90.0 3年 89.9 全体 87.6	保護者は昨年比+2.5ポ イント。特に3年生保護者の 数値が高い。3年間を通して 子どもが成長していることを 感じてもらっていると考え る。	ルールについて生徒が議論 した経緯をホームページや各 学年通信を通して保護者に 発信していく。
2. 明朗な和合・ うるわしい秩序 (協働)	仲間意識を高め、 人権教育を深化 しながら魅力ある 学校づくりを推 進するとともに、 不登校やいじめの 未然防止・早期 対応に努める。	(取組指標) 生徒が安心して学校生活を送るた めに、人権教育を深化しながら 魅力ある学校づくりを推 進するとともに、いじめの 未然防止や早期発見・対応 及び不登校への対処に 取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が安心して学校生活 を送るために、人権教育を深 化しながら魅力ある学校づく りを推進するとともに、いじ めの未然防止や早期発見・ 対応及び不登校への対処に 〔1〕 積極的に取り組んでいる。 〔2〕 ある程度取り組んでいる。 〔3〕 あまり取り組んでいない。 〔4〕 全く取り組んでいない。	100	100	毎月の生徒指導計画等を通 して、全校において多様性を 尊重する態度の育成を図 った。	今後も多様性を尊重する 生徒の育成を図るため、 指導の機会を生徒指導 計画に位置づけていく。
		(成果指標) 私は、安心して学校生活を送る ことができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	生徒	私は、安心して学校生活を送る ことが 〔1〕 できている。 〔2〕 だいたいできている。 〔3〕 あまりできていない。 〔4〕 全くできていない。	1年 95.1 2年 96.0 3年 97.5 全体 96.2	1年 96.1 2年 94.3 3年 95.5 全体 95.3	デジタル生活日誌や教科 面談等で先生方が丁寧に 生徒の思いを聞き、支援 したことにより90%を 超える生徒が肯定的な 回答をしている。でき ていないと答えた生徒 の中には、友人関係に 不安を持っている生徒 が多いと考えられる。	年3回の教育相談アン ケート及び面談を継続 して実施し、生徒の 悩みを早期に把握し、 いじめの未然防止や 不安の解消に努める。 また、学年レクリエ ーションなどを行い、 安心できる人間関係 作りに努めていく。
		(満足度指標) 私の子どもは、安心して学校生活 を送ることができている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	保護者	私の子どもは、安心して学校生活 を送ることが 〔1〕 できていると感じる。 〔2〕 だいたいできていると感じる。 〔3〕 あまりできていないと感じる。 〔4〕 全くできていないと感じる。	1年 90.1 2年 91.6 3年 98.3 全体 93.3	1年 92.1 2年 90.0 3年 95.6 全体 92.9	保護者は昨年比+0.4 ポイント。特に3年生 保護者の満足度が高 い。3年間を通して人 間関係づくりの力が つき、家庭でも落ち 着いて生活できると 感じているのではない かと考えられる。	アンケート等を活用し、 家庭において、学校 生活の楽しみや不安 なことについて話し 合う機会を創出す る。また、欠席した 生徒の保護者への 連絡を、今後も丁 寧に行っていく。

項目	重点目標	評価の観点・目標指数	回答者	判断基準	R6 %	R5 %	成果と課題	改善策・向上策
3.地域を担う人材の育成(貢献)	あわら考幸学を通して、ふるさと教育の推進に努める。	(取組指標) ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、知識を深め、地域に貢献しようとする態度の育成に取り組む。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	教職員	私は、生徒がふるさと「あわら」への理解を深め、地域に貢献しようとする意識が高まるよう、あわら考幸学の取り組みを (1) 積極的に行っている。 (2) ある程度行っている。 (3) あまり行っていない。 (4) 全く行っていない。	100	100	昨年度同様に全教職員があわら考幸学に積極的に取り組んでいる。この教職員の姿勢が生徒や保護者に伝わるとよい。	担任だけでなく、副担任も含めて学年全体で取り組む時間を増やしていきたい。学級を解いてテーマや分野ごとに分かれて活動することで、少人数で対応できるようになり、活動の幅が広がられるのではないかな。
		(成果指標) 私は、ふるさと「あわら」に誇りと愛着をもち、地域に貢献したいと考えている。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、ふるさと「あわら」について深く学ぶとともに、地域への貢献のあり方を考えながら、あわら考幸学に (1) 取り組んでいる。 (2) ある程度取り組んでいる。 (3) あまり取り組んでいない。 (4) 全く取り組んでいない。	1年 89.4 2年 91.9 3年 92.6 全体 91.3	1年 90.6 2年 90.2 3年 97.0 全体 92.7	昨年度より数値は少し下がっているが、全体としては目標数値を達成することができた。1年生は、「福祉体験」や「環境学習」などの今後の視点を与えるための学習や、データを分析し、課題を見つける練習など、探究活動に必要な知識・技能を身につける活動をメインにしていたので、数値が少し低くなったと考えられる。	今年度は外部とのつながりが少なかったことが反省点である。企業や地域との関係機関と連携する機会を増やしていくことで、生徒は地域との関わりや地域への貢献を実感できるようになるのではないかな。
		(満足度指標) 私の子どもは、地域貢献を意識してあわら考幸学に取り組んでいる。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が70%以上	保護者	私の子どもは、地域貢献を意識してあわら考幸学に取り組んでいる。 (1) 取り組んでいると感じる。 (2) ある程度取り組んでいると感じる。 (3) あまり取り組んでいないと感じる。 (4) 全く取り組んでいないと感じる。	1年 59.0 2年 58.3 3年 85.0 全体 67.4	1年 58.8 2年 54.0 3年 59.4 全体 57.6	全体として目標とする数値には届かなかったが、昨年度に比べ数値は改善されている。特に3年生の数値が高い。3年生はあわら考幸学の活動の様子をHome&Schoolにより、頻繁に発信していたので、その効果が大きかったと考えられる。	学年通信やラウンドテーブル(授業公開)など保護者に生徒の活動の様子を伝える方法は多数あるが、Home&Schoolによる情報発信は効果が高いことが分かったので、積極的に活用していく。また、新聞記事に載るとより多くの方に生徒の活動を知ってもらえることができるので、メディアを上手く活用していきたい。
3.地域を担う人材の育成(貢献)	地域の人と関わる体験活動の充実を図る。	(取組指標) 生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよう働きかけを行う。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が100%	教職員	私は、生徒が地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加するよう働きかけを (1) 積極的に行っている。 (2) ある程度行っている。 (3) あまり行っていない。 (4) 全く行っていない。	96.8	87.6	昨年度に比べて上がった。地区生徒会を通して資源回収に参加することの意義について働きかけた。	「地域探究」活動等と関連させて生徒が地域の貢献活動に参画できるよう、総合的な学習の時間をコーディネートする。
		(成果指標) 私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が90%以上	生徒	私は、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに (1) 参加している。 (2) ある程度参加している。 (3) あまり参加していない。 (4) 全く参加していない。	1年 66.7 2年 65.3 3年 78.7 全体 70.2	1年 62.5 2年 80.4 3年 84.7 全体 75.9	3年生はボランティア活動として募金活動やペットボトルカップ集めに取り組んだ。そのことが数値に現れたのではないかな。昨年度に比べ数値が下がっているため、生徒が参加を実感できる取り組みを考える必要がある。	生徒会が資源回収の意義について引き続き全校生徒へ呼びかけていく。更に、地域には自分たちが参画できるような貢献活動があるのか、生徒が考えたり調べたりするような学習を計画する。また、地域の行事や資源回収などの振り返りを行う。
		(満足度指標) 私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに積極的に参加している。 【目標指数】 〔1〕+〔2〕の合計が80%以上	保護者	私の子どもは、地域の行事やボランティア活動、資源回収などに (1) 参加している。 (2) ある程度参加している。 (3) あまり参加していない。 (4) 全く参加していない。	1年 73.8 2年 68.3 3年 83.4 全体 75.1	1年 72.6 2年 70.0 3年 76.8 全体 73.5	全体の数値は若干上がっているものの目標に到達していない。保護者への働きかけを工夫していく必要がある。3年生保護者の評価は、昨年度2年生時と比べて+13.4ポイントと大きく向上した。	ホームページ等を利用して学校の様子を伝えていく。また、探究学習の経過を学年通信等で発信するとともに、あわら市民として何ができるかを、家庭でも考えてもらえるよう啓発していく。

進路・学習部

一部変更
しました

生徒指導部